

第 2 回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験の歴史学習基本構想検討委員会
議事録

日時：平成 22 年 7 月 1 日（木） 10:00～12:00

場所：明日香村健康福祉センター たちばな 会議室 1・2

出席者：

< 委員長 >

平野 侃三 東京農業大学名誉教授

< 副委員長 >

三輪 嘉六 独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館長

< 委員 >

足立 久美子 歴史街道推進協議会メインルート事業部課長

猪熊 兼勝 京都橘大学名誉教授

岡本 直之 三重交通グループホールディングス株式会社取締役社長 欠席

河上 邦彦 神戸山手大学現代社会学部教授

木下 正史 東京学芸大学文化財科学科特任教授 欠席

関 義清 明日香村長

八丁 信正 近畿大学農学部教授

増田 昇 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授

吉兼 秀夫 阪南大学国際観光学部教授

（敬称略、五十音順）

< 協力委員 >

建石 徹 文化庁文化財部古墳壁画室古墳壁画対策調査官

加藤 真二 独立行政法人奈良文化財研究所飛鳥資料館学芸室長
（代理出席者：成田 聖 飛鳥資料館学芸室研究員）

高野 一樹 奈良県地域振興部地域づくり支援課長
（代理出席者：田中 利亨 地域づくり支援課課長補佐）

宮原 晋一 奈良県教育委員会文化財保存課主幹
（代理出席者：豊岡 卓之 文化財保存課記念物・埋蔵文化財係調整員）

西藤 清秀 奈良県立橿原考古学研究所埋蔵文化財部長

藤田 尚 明日香村政策調整課長

北浦 敬教 明日香村教育委員会文化財課長

三井 一男 高取町企画財政課長

杉平 正美 財団法人飛鳥保存財団事務局長

高村 幸夫 国土交通省近畿地方整備局建政部公園調整官

< 事務局 >

国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所
所長 舟久保 敏
調査・品質確保課 課長 三井 雄一郎

議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
 - (1) 体験的歴史学習基本構想に盛り込むべき内容について(討議)
 - (2) 地域と連携したイベントプログラムを考える懇談会について(報告)
 - (3) その他
4. 閉会

議事録

1. 開会
2. 挨拶

(舟久保所長)

皆さまおはようございます。会議の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

各委員、協力委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中またお暑い中ご出席いただき誠にありがとうございます。第1回目の会議を2月に開催して以来長らく間が空いてしまったことをお詫び申し上げます。この間に本件を進める上での前提となるキトラ古墳壁画の取り扱いについて、大きな動きがありました。その動きとは、詳しくはこの後の資料説明でご紹介いたしますが、当分の間キトラ古墳壁画を保存管理する施設について公園内に設置することを基本として検討していくということが、文化庁主催の委員会において了承されたということでございます。今回の会議につきましては、次回お示しする基本構想の原案を作成する上で必要となる、基本構想に盛り込むべき事項について皆さまにご討議いただくということでございますが、今し方お話ししましたキトラ古墳壁画の取り扱いについての動きを踏まえて、改めて学習テーマというところから事務局案を示させていただきます。短い会議時間ではありますけれども、コンパクトな資料説明を行い、なるべく多くの討議時間を確保できるよう努めますので、各委員、協力委員の皆さまにおかれましては、いろいろなご意見を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. 議事

(平野委員長)

先程、所長からお話がございましたように、第3回でこの委員会できりまとめをするということですので、第2回の今日の会議は大変大事な会議になろうかと思っております。是非皆さんのご意見をできるだけ言っていただきまして、最終案に盛り込んでいきたいという風に思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。最初に議事に従いまして、体験的歴史学習基本構想に盛り込むべき内容について議論してまいりたいのですが、それに関連しました資料が、資料1、資料2、資料3でございますので、それに従って事務局から説明をしていただき、その後で討議ということにしたいと思っております。

(1) 体験的歴史学習基本構想に盛り込むべき内容について
(事務局より資料 1 ~ 3 について説明資料に沿って説明)

(平野委員長)

それでは、今の説明を踏まえて、基本構想に盛り込むべき内容について、討議していきたいと思えます。論点まで示されておりますが、どういう意見でも結構ですので、ご意見ございましたらお話しいただきたいと存じます。

(三輪副委員長)

大変詳細で内容のある全体論だと思えますが、実際の管理をされていくとき、いくつかの分野をアウトソーシングしていくとか、指定管理者制度の導入などについて、現段階の考え方はどうなっているか、まずその考え方をお伺いしておきたい。

(三井課長)

管理に関しましては、確かにいろいろな議論が最近ございまして、国営公園でございますと 3 年の契約をもって管理をしています。正直なところを申しますと、今日この施設の内容をご検討いただいた上で、管理のところにだいが課題を残しているところで、はっきりと決めていくというわけではございませぬ。ただし、文化財であるとか、あるいは地域の方々とこれだけ深くやらせていただけるということで、例えば、アウトソーシングという形なのか、共働のような形なのか、そこまでは決めておりませぬけれども、多様な方々に入っていく、ただし公園を管理する者は別にしっかりといるという形で進めさせていただくのかなという風には考えております。

(平野委員長)

今の段階で指定管理者が入るかどうかということまで決めることはできないと思えますので、基本的には公園管理の中でいろいろな調整機関と連携を取りながら、実施する仕組みというのが必要だと思えます。どの主体が管理をするにしてもそういう仕組みは、この報告の中でもはっきりと、地域や関係機関も含めた連携の体制というものを作り出していく必要があると思えます。

(増田委員)

大阪府立大学の増田でございます。専門は緑地学や造園学が専門でございます。文化財が直接専門ということではございませぬ。今の話の中で出てきておりました、この全体像の考え方が、どちらかという市民をビジターとして受け入れるという論調になっていると思うのですが、例えば景観保全のところにしる体験学習のところにしる、担い手として市民が入ってくる、あるいは多様な活動団体が入ってくる、という認識が非常に少ないのではないかとと思えます。それは例えば体験学習館の中のサポート機能の中にもボランティアと呼んでいいのか、あるいは公園管理、あるいは施設管理のパートナーというような形で考えたほうがいいと思うのですが、パートナーの方々がこの中でどういう役割を担って、それをサポートするための機

能みたいなものが、かなり抜けているのではないかという、よくあるいろいろな所でボランティアルームがあったりとか、活動団体の交流ルームであったりしますが、そういう担い手として見たとき、どう考えるのかというあたりが少し弱いのではないかと思います。特に私の分野の専門からみますと、ビジターの行動形態というのが何パターンか検討されている図があったと思いますが、例えば16、17、18ページにターゲットの考え方があって、18ページのところに農林業体験コースの景観維持活動というのがターゲットとなっていて、どちらかといえばやはりビジター的な形でその活動が位置づけられておりますが、この活動というのは、どちらかという、例えば里地里山体験フィールドの管理運営を担っているという活動で、ビジターというより運営側の担い手という認識ではないかなと思います。そういう所が何ヶ所かあると思います。工房的な体験をする所についてもそれを担っているメンバーがいて、それはビジターというよりもむしろ担い手側あるいは、公園管理者のパートナーであり、そんな認識が全般を通して少し弱いのではないかと感じており、もう少し強化していく必要があるのではないかなと思います。

(平野委員長)

大変貴重なご意見ありがとうございます。恐らく事務局はそれを意識して書いたつもりなのでしょうが、ご指摘のように弱いということやはりあるわけですから、もう少し明確に打ち出していかなければなりません。ビジター対象に図をつくられておりますが、それを支える仕組みが同時にそこに出てくるような表現の仕方をはっきりしていただくこと。現実的には、それをやっていきませんと運営ができなくなるということになりますから、非常に大事なことです。

(河上委員)

読ませていただいて気になったのは、非常に難しすぎる。飛鳥まで来て、なんで勉強せなあかんねんということです。こんな内容で子供が来ますかね。それと同時に、キトラ古墳はおそらく朝鮮系の墓だと思いますが、テーマが帰化人とキトラ古墳の壁画ということになっていますが、間違っキトラ古墳が帰化人の墓のように思われがち、そういうような感じがします。帰化人といいます、帰化人の研究がそれほど進んでいるわけではないのですよね。これは、おそらく木下委員が盛んにやられていると思われがち、飛鳥ないし帰化人の研究がどれほど進んでいるのでしょうか。その辺が気になりました。もっと易くするべきではないか。研究するなら研究チームみたいなものをつくってやればよいと思います。また、これだけの施設ができると、そこに専従する人がいますね。いわば、そこに仕事ができることになる。仕事ができるということは、収益があって初めて人を配置できるが、その辺の感覚はどのようになっているか。ボランティアの話が出ておりますが、ただでボランティアが使えるはずがないです。その辺が違うのではないかと思うのです。少しでもお金を取ってもでも、ある程度運営できるようなやっていかなければ、長続きしないのではないかという気がします。

(平野委員長)

この報告書自身の書き方が、かなり難しい感じで受け取られることがあるというのは、私も

同感です。ただ、具体の展示は分かりやすくやっていただけるものと思いますが、豊富な内容を表現しようとする、現段階での書き方は、ある程度難しくならざるを得ないと思われます。今のお話の中で非常に気になる点がございましたのは、帰化人といっても研究がそれほどされていないということですが、ここで発掘の結果を踏まえながら、その成果を生かして何らかの体験学習をつくって、古代人の活躍の状況を示していこうというのは事実なのですが、いかがでしょうか。そこまでの研究が至っていないというお話を頂いたと思いますが。

私は、今、発掘されて相当に議論されていることを素直に展示していくことは、あまり研究がされていないからこそ大事ではないかという気がしました。本計画はキトラ古墳と檜隈寺の2つの柱になっています。場所的にも2つになっていますので、それが1ヶ所で混乱するという事ではないので、帰化人のほうは主として檜隈のほうでいろいろな表現をし、キトラそのものはキトラ古墳周辺でやるということですので、混乱することはないだろうと思います。両方を明確に打ち出していくというのは、この場所でやる以上は大丈夫ではないかと思います。

(舟久保所長)

今、河上委員からご意見を頂きましたけれども、委員長にも述べていただきましたが、内容が難しすぎるのではないかということについては、確かに今の言葉は堅く書いているんですけども、実際にこれから展示解説の計画を詰めていくという中で、確かにそのターゲットになる子供たちに来ていただいて学んでいただくことが重要だと思っているので、やはりその表現の仕方について、ここをもっと分かりやすくするだとか、もっと導入部分について取っつきやすくするだとか、そういったことをやはりいろいろ考えていかなければいけないという風に思っています。ただ、学習のテーマとしてはこのようなテーマを大きく置いたところで、細かな話を詰めさせていただけないかというのが、今回の基本構想で述べたいということでございます。今ご指摘いただいた点は本当に重要ですので、その工夫はこれから細かく内容を詰めていき、具体化するところでは本当に配慮する必要があると思っております。それから、渡来系についてですが、これから計画を詰めていく中で、文化財部局の方にもご意見を頂きたいと思っておりますが、最近、国営公園を整備する中で、発掘調査をしていただいておりますが、その中でかつては分からなかったこととして、渡来系の方々の住処の跡が見つかったりと、いくつかの発見があるという風には聞いております。そういったことを受けて、渡来人のもたらした技術・文化をテーマに据えて、ここで展示を行うことは必要ではないかと考えているところではあります。一方で、河上先生が言われたように、誤解を与えるような、あたかもそれが定まったかのような、そういう展示を行うことは良くないと考えています。そのところは実際に、今後の話になってしまいますが、これから計画内容を詰めていく中で、どこまでがはっきり分かっているといいますが、ある程度研究成果としてはっきりとしているものだと言えるのかということと、そうではなくて、これについてはまだまだ議論の余地がだいぶあるというようなことについては、複数のそういった議論を紹介させていただいて、実際に来た方々に、なるほど今ここまでは分かっているのだなと、まだ議論中なんだなということが分かりやすいように、要は、決まったものでないものについては、誤解を与えないような仕方で、何らかの展示を行う。ただ、私の意見になりますけれども、議論の過程があるものは、議論の過程として紹介をすることが、まだまだ議論途中なんだということが、来た人にとっても非常に興味深

いのではないかなというふうに思われるので、決まったことだけをお話しするというのではなくて、これからの議論の行く末を見ていただくという点からは、その議論の途中のものは議論の途中ということをはっきりさせた上で、展示させていただけないかという風に思っているところであります。

それから、最後ボランティアの件につきましては、増田先生からご意見を頂きましたけれども、運営内容を充実させていくためには、多くの方々のご協力も必要なので、そういう方々をどんどん育てていって、その方にいろいろご協力をいただくということをもう少しきちんと盛り込みたいと思います。本当にそれでうまくやっていけるのかということについては、実はもう既に飛鳥については里山クラブというボランティアの方々がいらっしゃって、お金の支給などなく、非常に飛鳥に興味を持った方が講座を受けて、毎年増えていっている状態なので、そういうことやこれまでの事例を基にしながら展開を考えていこうにしたいと思います。その中でボランティアの方々が活動して、プログラムができていくということであれば、もしその方々が揃わなかったらどうするのかという問題意識は持ちながら、そういう高いレベルに対応していけばいいかということについて、引き続き検討していきたいと考えております。

(河上委員)

専従で、いわゆる仕事としてやれる人ができるだけほしい。要するに明日香村には企業が無いわけですから、村の人たちの仕事の間として雇い入れること、それが必要な時代になってきたのではないかと思います。例えばここで明日香村の人を100人でも雇うことができれば村の活性化につながっていきますし、そのためにそれだけのものを設けなければならない。どこで儲けるかということも考えることが必要かと思っています。

それからもう一つ気になっているのは、キトラと高松塚古墳との共存をどうするか、高松塚古墳も10年先には何とかなるでしょうから、折角、建石さんがここに来られているから高松塚古墳のこともお聞きできたらなと思います。

(建石協力委員)

今、河上委員がおっしゃられたように、キトラ古墳のすぐそばに高松塚古墳がございまして、今、高松塚古墳壁画は、公園事務所のすぐ隣に壁画の修理施設をつくってございまして、そこでの修理の作業をしております。今の計画ですと、平成19年に石室を解体したものですから、それから10年間というような形で、今、修理の計画を立ててございまして、今はその3年目というような形になっております。

キトラ古墳の壁画につきましては、昨年8月に私どもの方の保存活用検討会という委員会があるのですが、そちらの中で当面の間は、壁画を古墳には戻さない、もちろん現地保存を将来的に諦めたわけではなくて、将来的には戻したいということを前提にいたしまして、ただ、技術的なことを考えますと、当面の間は戻せないというようなところで、本日のご議論にもなっていると理解しております。実は、高松塚の方はまだその議論をしている途中でございまして、高松塚の保存管理の経緯が複雑といいますが、30数年間保存管理をしていく中で、壁画が傷んでいたというようなことがございましたので、まず、それについて、そもそもの劣化原因を明らかにしようということで、一昨年度と昨年度、2年間かけまして、劣化原因調査

をかなり集中的に行いました。最終的には、いろいろな要素が絡まり合うような形で、文化庁の管理面も含めて、いろいろな要素が絡まり合うような形で壁画の劣化が起こるといったことが明らかになりまして、それを3月に報告させていただきました。

ですから逆に申しますと、その逆のことをどのような形で実現するのかというようなところが、現地保存あるいは壁画を保存管理していく上で、重要になってくる。その時の技術的なことあるいは理念的なことについて、まだ暫く文化庁の会議などでもご検討いただいて、最終的な結論が出たところでまた、高松塚古墳の壁画の今後のあり方について、特に河上委員のおっしゃられたように10年後にはその修理が終わるであろうというようなところで、その次の議論を始めていく。そういうようなことになろうかと思われまます。今後、それにつきましても、文化庁側の会議の進捗状況をこちらの国土交通省の会議にも随時お伝えできると思っておりますので、またそういう機会を頂ければと思っております。

(足立委員)

今、ずっとおっしゃっているように、ここを案内されたり、学習をサポートされる方は、専門的なことも要求されるし、総合力がものすごく必要だと思います。そういう意味で、ボランティアという枠を超えて専門的な知識を学んで、それを職業とするというくらいの考えが本当に必要なと思っております。人材育成の大切さは謳われておりますが、その割には具体的なことが明確にされていないというのがあって、先程、盛り込んでいきたいんだということをおっしゃっていたかと思いますが、本当にそれが一番大切なことなのかなと思います。学習プログラムを考えていかれるにしても、それをどういうふうに見越していくかということがありますし、先ほど、非常に難しいということがありましたけれども、それを分かりやすくどういうふうに伝えていくのかということも、それを運営する人の問題でもあると思っております。

それから、これはやっぱり体験学習だけ、学ぶってということだけでなく非常に総合的だし、案内施設ということが入っていますけれども、その時に、一般の方が来られたら、飛鳥のことだけが知りたいのではなく、周辺のことも知りたいということとか、もっと下世話なことと言うと、「おいしい所ありますか」、からはじまり、「良いお土産はどこですか」とか、そういうことにも対応していくということが要求されている。今、遷都祭が開催されていますが、あそこもボランティア研修がなされていて、あの中で一生懸命頑張っておられますが、少し問題になっているのが、その施設の中のことは良く知っているのですが、「じゃあここからどこに行けますか」とか、「もっと奈良を楽しむにはどうしたらいいですか」と聞かれた時にほとんど対応ができてない。そこまで学ぶ時間がなかったというのがあって、それをどういう風にしていくかというのを今検討されている。いろんなことが想定されると思っておりますので、基本構想をつくれる時に、どういう人材が必要なのかという人材像をしっかりイメージした上で、考えていくことが必要なんだと思います。

(三輪副委員長)

今、足立委員がおっしゃったとおりでして、前回たぶんエドゥケーターの必要性を主張したと思っておりますが、体験的歴史学習という基本構想にあるわけでありまして、この公園づくりの最も根幹は、体験的歴史学習ということでもあるわけですから、やはりそれを達成できるのは、

しっかりしたエドゥケーターをどう養成していくか、ここに基本の決め手があるように私は思っております。内容を盛り込んでいくことの大事さはもちろんありますが、まずエドゥケーターの育成、あるいは教育、あるいはその発掘、ここでのエドゥケーターはどうあるべきか、たぶんエドゥケーターというのは全国一律ではなくて、飛鳥的なエドゥケーターで良いと思うのですが、そういうものをどう位置づけていくかということに相当な精力を使っていたきたい。

もう一つは、先ほど河上委員が渡来系の文化について、いくつか懸念されていたことがありますが、私は展示は分かる範囲でいいと思います。ただ構想の中でちょっと気になるのは、扶余、公州だとかそういう所から影響を受けた飛鳥の大きな文化、それは素晴らしくて良く分かるのですが、もうひとつ大事なのは、基本構想はそこまで終わっていることです。飛鳥から、今度は日本国内の各地にどう影響をもたらしていったか、もちろん飛鳥経由で影響した部分もあると思うし、ダイレクトに扶余や公州等から影響を受けた所ももちろんあると思いますが、そういう地域をなるべく探し出して、そういう地域とも連携をとれるような構想の全体を作っていく必要があるのではないかと。そうすると飛鳥を訪ねて来る人にとっては、俺らの町にもこういうものがあるんだとか、こんなところに親戚関係があるんだとか、そんなところに分かりやすい部分がでてくると思うので、飛鳥発百済文化みたいな、そういう部分を是非構想の中に、これはまた専門的なワーキンググループがつくられて議論されるのでしょうか、そんな中で入れていただければと思う。

(八丁委員)

今のお話と少し関連するんですが、例えば私が飛鳥に来て何を学びたいかとかいうことを考えてみると、おそらく国の成り立ちというか、日本の国がどうやって成り立ってきたんだろうということだと思います。飛鳥全体の中で、特にこの時期は渡来人ということにフォーカスを当てているのですけれども、渡来人が持ち込んできたものによって、どういう風に国が変わってきたのか。構想でいろいろ整理をしていただいたのですが、例えば日本を変えた大きい技術として稲作文化がありますけれども、どの辺から整理していくのかなということがひとつあると思います。元々の稲作文化があって、徐々に生産が上がっていきましたが、飛鳥時代のどの部分から説明を始めるのか。弥生の頃からの稲が伝わった時代からやるのか、それとも渡来人が持ってきた考えとか土木技術によって、生産性が飛躍的に伸びた段階から整理するのか。ただいきなり土木技術の話をしてきた人にとっては、なかなか分かりづらくて、やっぱりその一連の流れがあって、最終的に今の明日香村の景観とか風景が残っていますよというところに辿り着くわけです。そういう一連の国の成り立ちの中に非常に大きな渡来人の影響があって、最終的には今の段階があります、というような一連の流れを整理できればいいかなと思っております。その理解を深める上でどういう形の展示をするのか、他の所と連携しながら、明日香村の中にあるいろいろな施設も含めて大きな位置づけの中で、今回の展示や整備をやるのかなというのが非常に興味を持ったところです。

それと、例えば体験学習の中で景観保全を考え、その中で棚田管理が入っているわけですが、棚田管理をやっても歴史的体験学習ということにはならないだろうと思います。ただ田んぼを作るだけというなら、稲刈でやっているような棚田保全活動に行けばいいのではないかと。

り、ここでやる棚田保全活動は村内の一般的保全活動とどう違うのかという話が出てくると思っています。棚田保全活動をやっている人に対しても、元々の技術はこういう風に伝わってきて、今現在こういう風に活用されていますよという形で整理できれば、ここである程度基本的な歴史的な位置づけを学んで他でまた活動できるという部分がある。非常に難しいとは思いますが、どの部分から説明を始めてこの特色を出していくのかというのは、そういう整理が一旦なされて、渡来人が持ってきた技術についての解説をするというところがあっていいかなと思っております。

特に技術の部分でいうと、加工技術みたいな体験しやすいような技術にフォーカスが置かれていると思うんですけれども、基本は農業というか食べものを作る技術があって、ある程度技術的な導入により生産が飛躍的に拡大して国の力が次第に強くなるような流れがある。そういう大きな流れの中でいろいろな新しい加工技術なども徐々に入ってきましたよというような形で整理をしていただけたらいいかなと思っています。

(平野委員長)

大変大きな位置づけが必要だというお話であったかと思いますが、それをそのまま表現しますと、先程の話のように非常に難しいということになりますので、それをどのような切り口で見せていくのかということが大事になってくると思っています。

(吉兼委員)

今の八丁先生のお話で気付いたのですが、飛鳥時代は古いので現実には難しいことはあるかもしれませんが、私はエコミュージアムというのを研究していて、フランスのある農園を確保してエコミュージアムをやっているときに、農地を保存するだけでなく、農法も保存する。例えばここで1400年前の稲作はもう真似はできないかもしれませんが、この時代でやってみよう、そうしたらその時代の道具も作らなければいけないということになりますので、そういった物が新しく公園の中で再現ができるのではないかと思います。一般の農家の方に江戸時代のやり方をやって下さいというわけにはいかないで、公園の中だからこそそれができるのではないかなと思う。そうなればそこでできた物をどう料理するのかとかという食生活の問題とか、その時何を着てやっていたのかという衣食住の衣の生活であったりとか、どこに住んでいたかという住の生活のことも研究のテーマにもなるし、それはもう少し面白い形にもなるのではないかなという気がいたしました。

全体に、非常にこの構想に私は好意的に思っているのですが、会議が進むに従って段々、公園ができるんだなという印象が段々強くなってきている。芝生公園は嫌だよということをおっしゃっていましたが、段々とそんなイメージがついてくるような気がします。

イメージとして秋と春は多くの方が来られるなという印象が非常に強くて、やはり夏と冬は誰も来ないんじゃないのという感じになっていきまして、もう少し年間利用ということを考えられるのではないかなと思う。施設なども最終的には鉄筋コンクリートもできてくるのではないかな、農小屋とかそういったものをもう少しイメージしたものがあって、そこでボランティアの方や地域の方が農機具を入れながら、そこでボランティアが来れるような、木造で作って、なるべく朽ち果てやすいものを作っていただいて、5年に1回、10年に1回みんなリニューア

ルすることでせめて森林組合や地元の工務店さんなどが活躍できる場ができてきたり、皆さんがボランティアで活躍できる場ができてきたらいいなと、そんな印象を持ちました。

(増田委員)

今おっしゃっていただいたように、例えば農地、里地里山のフィールドゾーン、古来の農法なりを展開していきなり、あるいは担い手としてパートナーと一緒にやっていくという時に、事前の活動も既にプログラムとして、されているということなのですけれども、開園前から担い手と一緒に活動することによってそれが設計に反映されていくような、一人ひとりを取り込んでいくというようなことが考えられないと、後の管理が展開できない。そういう面では従来までの公園というのは工事期間中ずっと閉鎖されてて、開園と同時に一般公開という形になるわけですが、つくり込む段階から参画をして、あるいは研究開発をしてここでの展開をしていくというような、そういうことを基本構想の中できっちりと書いておく必要があるのではないかなと思います。あるいは今後の課題として書くのか、そういう仕組みで造成を進めていくというような形で進めて行くのか、その辺も非常に重要な視点ではないかなと思います。

(平野委員長)

この公園は幸か不幸か平成28年度開園であり、結構時間がありまして、そういう意味で今おっしゃったような仕掛けをして、現実に動き出しているものもありますし、これから動かすものもあります。仕込んでいくという考え方ですね、それで現実に設計に反映されていく、それ自身が設計の中身を示してくれるという状態に持ち込むくらいに、前段となる昨年や今年、来年に、間に合うと思いますが、その出来上る前に体制づくりをかなりやっていかれるということが非常に大事なのではないかなと思う次第でございます。

(三井課長)

エドューケーター、ボランティア、パートナーなど、いろいろな言葉を頂いていて、あるいは専従でやる方も出てくるのではないかなというようなご意見まで頂いていて、地域の方に関わっていただく範囲というのは、専従的なのかいわゆるボランティア的なのかエドューケーターなのかまだはっきり線引きできていない、あるいは線引きがあるのかどうか、移行帯にある部分はあるのかもしれないですが、増田先生すみません、1回目のご説明が十分でなかったのですが、今日は実は議事(2)として、ご報告でご紹介をしようかと思っていたのですが、年に1回、明日香村のウォーキングイベントに合わせて、キトラ古墳周辺地区のまだ供用をしていない部分ですが、そこでコスモスを植えていただいて、ウォーキングで歩いて来た方々に振る舞うとかそういったことを実際に地元の方に体験していただいております。これらについて年1回懇談会をやらせていただいている、11月にイベントをやって、その参加された方だけではなく、これから地元でご協力いただけるかなというような、例えば演劇をされている団体の方であるとか、あるいは、もちろん明日香村の地元の方々であるとか、村の地域振興室や地域づくり課や関係の部局だとか、そういった方々とお話をさせていただく機会を持っています。今日できれば資料4で、4月にやりました懇談会のご報告をしようかと思っております。

(2) 地域と連携したイベントプログラムを考える懇談会について
(事務局より資料4について説明資料に沿って説明)

(西藤協力委員)

今、明日香村自身は暫定の世界遺産でもありますし、国際性を問われているところもあると思います。折角、渡来人のもたらした技術・文化を展示していく中で、国際性のあるところを少し謳っていただければと思います。暫定遺産から暫定が取れるような形で保存施設自身が確保されることになればありがたいですし、また、中国や韓国からの観光客も増えていますし、そういう人達に対してもケアしていただきたいと思います。

(舟久保所長)

各委員から、いろいろなご意見を頂きましたので、取りまとめてお話しさせていただきます。足立委員と三輪副委員長からお話いただいた人材育成、エデュケーターの関連ですが、これについては前回もご意見いただきましたし、活動を充実させる上で重要なことだと思っています。飛鳥オリジナルでよいというお話も頂きましたが、これをどのように展開していくか難しい課題でもありまして、基本構想としてどこまで細かい話を書けるかと感じているところでもありまして、管理運営を展開していく上で重要であることは盛り込みつつ、実際どのように展開していくかについては、引き続き勉強させていただければと思っています。一方で、活動を充実化させるためには重要なことですが、それを目指しつつ公園管理者として最低限どういったことを提供していけるかということについても整理していきたい。つまり、目標として高いレベルを持ちつつ、どういったことをステップとしてやっていけるかということの基本構想の中で整理していきたいと思います。

それから飛鳥のことだけ提供しても利用者には不便ではないか、そういった知識を持つことも必要であるということについては、一つはそういうことがあると思いますし、もう一方は、飛鳥の中で各種施設で既にそういったことを提供している所があったり、また、人によってそれをお伝えすることもあれば、ホームページなどの媒体を持ってお伝えすることもあると考えていますので、そういった媒体の使い方、連携のとり方についてどういうことができるか考えていきたいと思っています。

八丁委員からお話いただきました、国の成り立ちや渡来系の人達によって、どのように変わっていったか分かりやすく展示をしていくかということにつきましては、八丁委員ご自身から、例えば渡来系の人々に焦点を当てたとしても、もともとの話があって、そこに渡来系の方々が加わって、発展して広がりといったことがあれば、もともとの話から進めたほうが分かりやすいのではないかと話を委員の方から頂いたので、そういうことを考えて計画の具体化を図っていくようにしたい。

棚田保全活動について、他に行われていることとの棲み分けと申しますか、全く同じことをやっても仕方無いのではないかとのご意見につきましては、18ページで農林業体験コースのを見てご発言いただいたのですが、最終的には村内農地・樹林地のところまで展開できれば、つまり、キトラ古墳周辺地区で行うことについては、全村へ向けた導入の役割を果たすこ

とができればと考えているところでございます、その後吉兼委員からお話いただきましたが、導入ということであれば、興味や関心を抱くような形で展開していったり、必要性ということをよく理解していただいていることもあるのではないかと、農法などのお話はヒントを与えていただいたのだろうなと思っておりますので、そういったことの取り組みを具体化の中で考えていただきたいと思っております。

増田委員から頂いたお話は、イベントプログラムで活動団体の方からも、構想レベルだけではなく、実際に施設設計する中でも、活動団体の意見を聞くようにしてほしいと、それで本当に公園が開園されたときに使い易い公園として機能するようにしてほしいとご意見いただいておりますので、そういったことの取り組みについて、これから開園を迎える中でやっていきたいなと考えているところでございます。

檀原考古学研究所から頂いた国際性の話は、その点を考慮していきたいと考えております。

(加藤協力委員(代理:成田研究員))

去年と今年、キトラ古墳壁画の展示に関わっておりまして、先ほど事務局から使いやすい公園とすると指摘がありましたが、そのとおりだと思っております、お客様に接して解説した感覚で申しますと、やはり奈良に来られる方は短時間で帰る人が圧倒的に多いと思われまます。奈良に宿泊施設が少ないというのも理由の一つだと思いますが、ある所は人が混んでどうにもならないけど、ある場所はゴーストタウンになってしまうなど、そうすると、例えば体験学習館でキトラの壁画を展示するとなると大混雑になって、その他の所は人がいなくスカスカになってしまうなど考えられるため、実際の利用予測といいますが、そういうものからしても使いやすいについて考えていくべきであると思えますし、今年のキトラ古墳壁画の展示のプレオープンの際に、村の方に来ていただき、見ていただき、そのとき学芸員が見ただけでは分からなかったことがありまして、見ていただいたお客様に、こうしたほうが良いと言われたこともあった。展示のときにも例えばボランティアの方々と一緒にプレオープンをして実際に意見を言っていたりなど、展示のときにも参画を取り入れていくと良いと思われまます。もう一つ経験したことです、暇つぶし用にパズルを作ったのですが、昨年もそうだったので、今年は難しくしました。ところが、実際はパズルを解く展示室は大盛況でして凄まじい回収率を記録しまして、1万5000~6000くらいの回収でした。実際、お客様に聞かれるようなことをパズルにしたのですが、もちろん、分かりやすくすべきところは分かりやすくし、マニア向けのところはマニアックにしました。もしかしたらコーナーを分けて、お客様が喜んでいただくとか、使いやすいとか、満足していただけるという視点の下にコーナーを使い分けるのが一番喜んでいただけるのかなと思えます。

(河上委員)

体験学習館というのがありますね、それと体験工房、体験学習館というのは、もともとは博物館とか資料館とかそういった形のものですが、それに他のものを入れるということですが、当然のことながら、ここにはキトラの壁画があるわけですが、重要文化財を展示する空間となるわけですね。ということは、どちらかという体験的どうのこうのというのではなく、博物館としてきちりしたものをつくってほしいと思う。あまりいろいろなものを突っ込まないほ

うが良い。明日香村では最近いろいろなものが発見されており、村長にお聞きしたいのですが、明日香村で博物館を考えておりますか。明日香村の資料をここで展示できないかと私は思っております。あまりいろいろなものを付帯しないほうが良い。重要文化財があるので、子供たちが遊びまわって文化財を潰してしまうということもありうるので、そういうことがないように、きちっとしておいてほしい。

(関委員)

まず、河上委員の明日香村の博物館ということですが、これは公園の所長にもお願いしております。公園のほうもその意向をしっかりと受け止めていただいていると思います。別段、明日香村の博物館という名前ではなくとも、明日香村からの遺物、特にキトラ、高取の領域も入るかと思われませんが、そういうことも踏まえて考えていただければと思います。皆様方にいろいろご意見いただいてありがたく感じております。そうした中、特に、公園の建設、運営にあたってのお願いがございます。地域の活性化ということで、事業のはじめから、また、事業が終わった後、そして、運営等々未来まで、飛鳥人が関われるよう特段の配慮を願いたい。特に建設にあたっての部材については、明日香にある部材を使ってつくっていただく、先ほど木が朽ちたら5年に1度やり変えて等々というご意見がございましたが、私はそれが、国営飛鳥歴史公園のあり方の原点だろうと考えております。それともう一点、渡来人・帰化人という言葉が出ておりますが、観光客をターゲットとして、これからは中国や東アジア等々、世界遺産になっていくと世界各国からおいでいただきたいという思いもします。東アジアの人々が飛鳥に我々のルーツがあったんだということを踏まえて、しっかりとこれからの観光客の思いというものを、国際的にということですから、しっかりと受け止めていただきたいなと思います。それと、この飛鳥の特別立法、保存等につきましては、飛鳥保存財団に活動していただいております。無住社寺等々の改修の補助もしていただいております。そして高松塚の展示等も置いていただいております。この飛鳥保存財団のあり方というものを重要視して取り上げていただきたいと思います。国営公園の事務所長は明日香村を国に伝える大きな義務があり、考えることをしなければならぬと思います。ただ、国営公園の話だけではないということも踏まえて考えていただきたいなと思います。

(舟久保所長)

国営公園のことだけでないということもきちんと考えてということですが、そのように心していきたいと思います。もともと公園については、経緯を考えたときに、国営公園を造ることが第一になっているわけではなく、飛鳥地方全体の振興を考えて、この公園が位置づけられていると考えておりますので、そのような視点を忘れないようにしたいと思います。明日香村の部材をとということにつきましては、どこまで限定できるかということにつきましては、もう少し考えさせていただきたいと思いますが、いずれにしても最後お話しいただいたことにつきましては配慮していきたいと思います。もう一つ、河上委員から頂いた博物館の話ですが、体験学習館という名前が昔についた名前でありますので、その点の工夫はしていきたいと思いますが、博物館と違うところは、調査研究機能をどこまでおくかについては、明日香村には資料館があったり、また近隣には橿原考古学研究所、奈良文化財研究所があったりと、役割分担があるの

ではないかと考えています。もちろん文化財を置くようなスペースについては、それが損なわれることの無いような工夫はハード的にもソフト的にも重要だと思っております。キトラ古墳壁画については、その取り扱いについて文化庁が主体となって管理を行うということも、公園内に置くといったときに同時にお話いただいていることでもありますので、これから計画設計の中で、実際にどういう諸室をどの程度の規模でどういう作りで設けるのかこれから検討していくわけですが、そのときには文化庁をはじめ文化財部局と実際どのようなことが施設の条件として必要か、きちんと検討整理していきたいと考えております。

(建石協力委員)

河上委員のお話に関わりまして、今の文化財保護上の文化財指定の枠組みについて現状をご説明させていただきます。高松塚古墳とキトラ古墳は指定の枠組みが少し異なっております、その点につきましてご説明いたします。高松塚は古墳が特別史跡、壁画が国宝、もちろんその国宝は特別史跡の一部となるわけでございます。出土遺物につきましては重要文化財というような形でいわば三重の指定をしているといえるのでしょうか、これは昭和 47 年に発見されてから数年間の間に全てそのような指定をしております。一方、キトラ古墳は文化庁が関わるようになった直後から保存問題が大きい問題となりまして、現地保存だけいくというような話ではない形で、いろいろな議論があったこともありまして、古墳自体は壁画の発見直後に特別史跡にしております。ですから、壁画については特別史跡の主要な構成要素というようなところは高松塚と同じなのですが、その後の壁画を絵画としての重要文化財や国宝としての指定はまだしておりません。出土遺物につきましても同様でございます。これはなぜかというようなことは、最近も新聞記事で大きく取り上げられたようなところもあるのですが、今、壁画の剥ぎ取り、つまり修理中であるということで、当然、安定すれば指定というようなことで考えております。いつかというような話はまだなのですが、今、仮に重要文化財に指定しますと、この秋に剥ぎ取り作業をしますが、そのときに現状変更の手続きをしなければならぬですとか、そういうことがありますので、指定の枠組みは今特別史跡ということだけ。ただ、実際には明日香村のご協力を頂きながら、文化庁が直営で管理を行っておりまして、既に重要文化財あるいは国宝級の扱いをしているというところは事実でございます。

(平野委員長)

実態的には国宝としての扱いをするということでございますので、当然、展示のほうも手法につきましてはいろいろな制約がはいってくることは事実であろうと思われれます。

(杉平協力委員)

当財団は、高松塚壁画館の運営をいたしております。しかしながら、開館 3 4 年経過しております、壁画館としての発信力は低下しているのは実際のところでございます。今回体験学習館の検討がなされておりますが、もし、例えばキトラ体験学習館の中に、壁画古墳について、以前、網干先生が東アジアの壁画の一覧展示をご提案されたと聞いておりますし、もしそういう機能が盛り込まれるのであれば、当財団が運営で活用しております、模写壁画等の一体的活用も検討できるのではないかと考えております。その際には我々も 30 年を超える公園施設とし

てのかかわりもありますので、何らかのお手伝いできればありがたいと思っております。もう一点ですが、ボランティアの育成という話が出ておりましたが、我々は飛鳥の駅前で景観整備ということで、地元の方にご参加していただくよう声かけをしております。その際に必ず質問されるのは、専門知識ないのに参加していいのですかという話が出ますので、ボランティアの育成も大事だとは思いますが、ボランティアのハードルを下げるということで、多くの方々にご参加いただける機会を提供することも一方でやってよいのではないかと感じました。

(高村協力委員)

終盤になって皆様に投げかける形になり不適切かもしれませんが、少し確認させていただければと思います。資料3の14ページのところで整理させていただいておりますが、属性タイプを導入してプログラム等考えていきますという部分ですが、歴史とか文化財、史跡等々もかなりリピーターの方が、それは個人であったりサークルであったり、飛鳥には来られているのかと思いますが、そうした方々に向けて、この中のプログラムですとか、あるいは施設の機能面でしっかり歴史に関心が深くて個人としてあるいはサークルとしてリピーターとして、来られている方々にある意味適切にプログラムあるいは機能等が十分に検討されているかどうか伺いたかったのですが、終盤になってこんな形になってしまって失礼いたします。

(平野委員長)

既に検討されているかということですか。

(高村協力委員)

ひょっとして、重要な点が抜け落ちてしまっているのではないかという不安もありまして、歴史や文化の先生がいらっしゃっていますので、ある意味リピーターの方も踏まえて検討されているのではないかと、あるいは抜け落ちているかもしれないとかあろうかと思っておりますので、少しご意見いただければと思います。

(平野委員長)

たくさんの専門家も来られるのではないかと思います。先程、外国の話もありましたが、外国からの一般の方も来られるが、専門家も来られるのではないかと、その点が抜け落ちていないかというのが、少し気になります。是非、企画展示を当然やると思いますが、その際には、新しい技術の発表なり、新しい発信がどんどんされていくようにしていくというのが、レベルの質を上げていくことになりますので、その辺を考えていくほうが良いと思われま。

(西藤協力委員)

我々も、奈良文化財研究所や明日香村教育委員会と同じく発掘調査をしております現場説明会をしております。その中で毎年遠くから宿泊して来られる方もおられますので、大部分の方は短時間で帰られますが、宿泊して毎年来られるある意味のリピーターがおられますので、文化財・史跡鑑賞の中にリピーターというのは必ずおられると思われま。

(三輪副委員長)

14ページについては、私はこんな感じかと思います。一言申し上げたいのは、国土交通省(観光庁)主導で、問題提示されていることの一つは文化観光ということだと思います。文化観光は、他の省庁も関心を持ってやっておられますが、せっかく文化観光を早くから提唱されて、観光立国の流れもできたりしている。国営飛鳥歴史公園というのはできれば文化観光のモデルになるようにしたい。文化観光は何かと考えたときに、意外に全国にモデルがないと思います。むしろ飛鳥こそモデルになれる地域であり、それにふさわしい地域ではないかなと、そんな気がします。やはり明日香村の活性化にももちろんつながることなのですが、面白くなければ、あるいは楽しくなければ、あるいは学びがなければ国営飛鳥歴史公園ではないといった視点で分かりやすさを正面に出しながら、文化観光を近年盛んに提唱している中の典型的なモデルづくりに向けて励んでいただきたいと思います。

(猪熊委員)

文化財部局という言葉が突然出てきたのですが、その実態のことが全く分からない。その文化財部局は、文化財の関係者のことを言われているのだと思いますが。それから、渡来人の究明に関連してくるのですが、発掘をして公園をつくってオープンするのではなくて、発掘をする過程も全部、公園の中に入れてらいいのではないかと思います。そして、ここの公園で観光客やビジターに1日過ごしていただいてそのまま帰っていただくのか、飛鳥=キトラ古墳周辺地区なのか、そうしたら、飛鳥寺や石舞台古墳をどういう風に位置づけられるのか。そのことは同時に国営飛鳥歴史公園には他に高松、甘樫、祝戸地区がありますが、その地区との連携をどう考えているのか。

また、吉兼委員が言われた、古い道具を使って、古い姿でもってやるというのは、かつて明日香村の人が一番嫌がった発想なのだが、それを十分な検証なしに復活させるのか。亡くなった村民がこれを知ったら激怒するのではないかと思います。

(平野委員長)

現実のやり方には、いろいろな問題がございますので、次の計画段階等でもっとやっていく必要があると思います。

(舟久保所長)

猪熊委員からお話いただきまして、ここだけでよいのかというお話については、飛鳥地方の魅力をお伝えする一つの拠点にしたいとの考えでおりますので、ここだけに人が来ればよいとは思っておりません。ただ、計画の中にそのようなところを感ずるというのであれば、実際にこれから取り組む中で、関委員からも公園だけのことを考えても仕方ないでしょうというようなお話も頂きましたが、飛鳥地方の魅力を伝える、それから飛鳥地方全体を巡っていただくための導入の一つとして機能できればと思っておりますので、そのようなことをきちんと盛り込みながら取り組みをしていきたいなと思います。

(猪熊委員)

まとめの文章の中に他の施設との関連性を入れたらよいのではないのでしょうか。

(舟久保所長)

図の中で他の施設との連携の中で、こういう役割を占めるのではないかと、お示しさせていただいたとおり、これまでのいくつかの施設が飛鳥地方にあるわけですし、そういうところとの役割分担や連携を考えて整備をしていきたいと思えます。また、吉兼委員の言われた格好の話については、猪熊委員のおっしゃるとおりだと思いますが、かつて言われていたのは、明日香村全体の普通に営農されている方でさえも、そんな格好をしたらいいのではないかということ、ご批判があったのではないかと思います。吉兼委員が言われたのは公園の中であればイベント的にできることがあるのではないかということのヒントとしていただいたと思っているので、そういったことが、ここに目を向けていただける興味関心を引くものになるのであれば、公園の中だけでできるイベントの一つとして、そういったことを考えてもいいのかなと、私の方は受け取らせていただいたところでございます。

(吉兼委員)

自分の名札を見ていて、今、気が付いたのですが、私は今、阪南大学国際コミュニケーション学部ではなく、国際観光学部の学部長をしております、観光のことをお話ししなければならぬなと、ふと思いました。観光はやはり、深さの観光といわれ、初めて行った所は一番有名なものを見たいに決まっているのですが、リピートするうちにどんどん深い所に入っていき、そういった観光が増えております。それに対応できるものでなければ観光地は成り立っていかないだろうと思われま。私は、図と地論という持論を持っておりまして、図だけでなく、その背景となる地の部分について、お客様の関心が高まっているだろうと、そういうことをキトラ古墳周辺地区でも反映できるようなものになってほしいなと思っています。それから格好の話は、今説明していただいた通りですし、さらに、そういうことをやっているうちに、住民もこういうものを着てみようかなと思うかもしれない。新しい文化をつくっていくといいますが、飛鳥にふさわしい自分達の環境文化をつくっていくかと思うかもしれないと思っております。

(平野委員長)

時間もだいぶ経過してしまいましたので、特になければ、まとまった方向が議論されてきていると思えますので、それを踏まえて第3回案をまとめていただくということで、この辺で閉めたいと思えますが、よろしいでしょうか。

では、以上で終らせていただきます。

4. 閉会

(三井課長)

皆様、長時間ありがとうございました。2点だけすみません。吉兼委員のご所属が間違っていましたところは修正させていただいた上でホームページ等にアップさせていただきます。それから、ご説明が足りずに申し訳なかったのですが、文化財部局という単語は、本日来ていた

だいている文化財の関係を所管されている行政だとか、あるいはその関係の方々、研究所の方々を想定したものでございました。会議が終わった後で失礼いたしました。

全体としまして、今回のご意見を踏まえた上で、基本構想の検討を進めていきたいと考えております。次回は既に日程調整させていただいておりました、8月3日火曜日に開催をしたいと考えております。改めて開催案内をお送りさせていただきたいと思っております。

以上で、第2回国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

